

豊川市立小・中学校の水泳授業及びプール 施設の在り方に関する基本方針

【概要版】



令和7年6月

豊川市教育委員会

1 策定の背景と目的（本編P4）

1) 背景

- ・教員の働き方改革や負担軽減が求められている中、学校プール管理業務が学校や教員にとって過度な負担になっている状況も見受けられる。
- ・限られた人員体制で児童生徒の安全を確保しながら授業を実施する教員の精神的負担も課題である。
- ・築30年を超える学校プールが全体の89%と老朽化が進んでおり、適切な維持補修や改修等に係る財政的負担も大きくなっている。
- ・プール施設の改修等実施時期、改修等に係る費用対効果、将来的な財政上の負担を考慮すると、学校プール施設そのものの在り方について見直す必要がある。

2) 目的

将来にわたって安全で質の高い水泳授業を実施していくため、水泳指導などのソフト面、施設の老朽化などのハード面における現状と課題を整理し、水泳授業及びプール施設の在り方に関する指針として策定する。

2 方針の位置付け（本編P4）

「豊川市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂)」に基づく豊川市学校施設長寿命化計画を補完する小・中学校プール施設に係る基本方針として位置付ける。

3 小・中学校プール利活用に関する背景・現状（本編P5～8）

1) 学校プールの現状

小・中学校のプールの多くが昭和40～50年代に校舎と併せて建設された。その後、老朽化や児童生徒の増加等を受け、昭和50年代後半から平成にかけて9校のプール施設の改築を行ったが、残りの27校のプール施設は建設当初のものを使用している。

2) 水泳授業の意義、位置付け

ア 水泳授業の必要性

学習指導要領に基づいた水泳指導が適切に実施できるよう、全校で水泳授業を継続することが必要である。

イ 水泳授業の授業時数

学校教育法施行規則に定める一年間当たりの体育の授業時数は、90～105時数となっており、そのうち、令和6年度の本市の小・中学校の水泳授業時数は、学校によってばらつきが見られますが、平均して8授業時数程度充てられている。

ウ 水泳授業の計画時数と実施時数

本市の小・中学校における水泳授業は、平均11時数の計画に対して、実施割合が約78%となっている。屋外プールであるため天候等に左右されやすいことが主な要因。

4 小・中学校プールの維持に関する課題（本編P8～13）

1) 施設上の課題

本市の学校プールは、最も古い一宮西部小学校(築59年)を筆頭に、築40年以上経過しているものが全体の約78パーセント(28校/36校)を占めている。

プール槽、プールサイド、ろ過機等の設備機器の老朽化は顕著であり、こうした老朽化はけがのリスク増加、授業への支障、突発的な使用停止に繋がる恐れがある。

2) 運営上の課題

学校プールは小学校と中学校で運用形態・期間が異なり、また一部の中学校では、部活動による一定の使用がある。

小学校プールの夏休み期間中のプール開放は、令和2年度以降新型コロナウイルス感染拡大の影響や教員の負担軽減、学校への往復の児童や、プールサイドでの見守りをする保護者の熱中症対策のため、現在では数校のみとなり、年間稼働率は大きく減少している。

学校プールの経過年数(R6.4.1現在)

築年数	学校数	割合
築10年未満	0	0%
築10年以上20年未満	1	3%
築20年以上30年未満	3	8%
築30年以上40年未満	4	11%
築40年以上50年未満	19	53%
築50年以上	9	25%
計	36	100%

小学校における夏休み期間中のプール開放状況

学校名	プール開放回数		
	R4年度	R5年度	R6年度
千両小学校	4	6	2
御油小学校	8	7	10
代田小学校	—	8	—
萩小学校	3	—	2
長沢小学校	3	2	—
赤坂小学校	2	3	—
御津南部小学校	6	4	—

※その他の小学校は夏休み期間中、プール開放は実施していない。

3) 水泳授業指導上の課題

令和6年9月に小・中学校全 36 校へ水泳授業の指導における現状・課題について把握するためアンケート調査を実施。

【水泳指導における課題について】

小学校で25校(96%)、中学校で9校(90%)の学校が、課題があると回答。小学校では「安全性を確保するための教職員を確保しにくい」、中学校では「天候や気候の影響を受けやすく計画的な学習を進めにくい」、「泳力に応じたグループ分けをした指導体制が組めない」の割合が最も高い。

小学校では「水泳指導できる教職員の人数が十分でない」と回答した学校が 35%あり、学級担任制の小学校と教科担任制の中学校との違いに起因するものと推察される。

4) 教職員の負担に係る課題

プール授業の際には、担任の教員のほかにもプールサイドに一人以上の監視員をつけている。また、維持管理の面において、プール槽やプールサイドの清掃をはじめ、水泳授業期間中は残留塩素濃度や pH 値などの水質基準や施設・設備の衛生状態を維持するなど多くの時間が必要となる。

令和6年9月に小・中学校全 36 校へ「プールの維持管理に係る課題について」アンケート調査を実施。

【プールの維持管理に係る課題について】

小学校で25校(96%)、中学校で10校(100%)の学校が、課題があると回答。小・中学校ともに「プール開始時期の準備に労力が掛かる」、「水泳授業の準備に労力が掛かる」が高い割合。

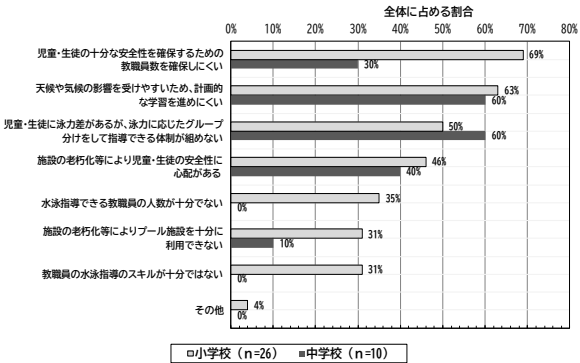
5) 児童生徒数減少の課題

市内小・中学校の児童生徒数は、今後ますます減少していく傾向にあり、令和 12 年度では 13,385 人(令和 6 年度比 11.9%減)の見込みとなっている。プールの稼働率とともに、児童生徒数の減少によりプール使用率はさらに減少していくこととなる。

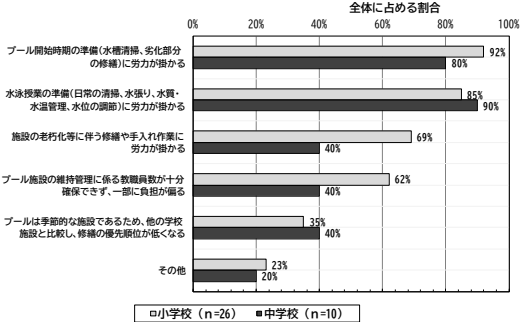
6) 財政上の課題

2024 年度から 2063 年度までの 40 年間における全小・中学校のライフサイクルコストは総額約 144 億円、年平均で約 3 億 6,000 万円かかると予想される。

水泳指導における課題について(複数回答可)



プールの維持管理に係る課題について(複数回答可)



今後40年間に想定される学校プールのライフサイクルコスト

大区分	小区分	内容	学校プール LCC(千円)	学校プール年間 LCC(千円/年)	1校当たりの年間 LCC(千円/年/校)
小学校 (26校)	①イニシャルコスト	・大規模改修(20年~30年目) ・改築費(基本60年目)	9,884,000	247,100	9,504
	②ランニングコスト	・水道、電気、薬剤、清掃・点検 ・修繕料(平均)	1,043,040	26,076	1,003
		小計	10,927,040	273,176	10,507
		合計	14,366,800	359,170	9,977
中学校 (10校)	①イニシャルコスト	・大規模改修(20年~30年目) ・改築費(基本60年目)	3,108,000	77,700	7,770
	②ランニングコスト	・水道、電気、薬剤、清掃・点検 ・修繕料(平均)	331,760	8,294	829
		小計	3,439,760	85,994	8,599
		合計	14,366,800	359,170	9,977

40年間の小中学校の総額：約 144 億円
年平均：約 3 億 6 千万円/年

5 民間屋内温水プールを活用した水泳授業試行等（本編 P13~21）

1) 実施内容

学校における水泳授業の指導体制や環境の充実、教員の負担軽減及び学校プールの老朽化対策に向けた今後の在り方を検証するため、民間屋内温水プールを活用した水泳授業の試行を実施した。

学校名	築年数	実施時期	利用施設名	移動手段	移動距離
中部小学校	45年	令和6年5月~7月	アイレクス NEO豊川	送迎バス	0.96km(約3分)
牛久保小学校	40年	令和6年9月~10月		送迎バス	1.1km(約4分)
豊川小学校	51年	令和6年10月~12月		送迎バス	2.5km(約10分)

【試行の狙い】

- ・移動、着替え、授業等に掛かる時間配分、安全面等の確認
- ・教員とインストラクターの連携の確認
- ・児童、教員及び保護者の意識の把握

■試行の様子



バス送迎の様子



水泳授業の様子



2) 試行実施後のアンケート結果

児童アンケートでは、9割を超える児童から「民間屋内温水プール施設での授業は楽しかった。」「インストラクターや先生の教え方が分かりやすかった。」と回答している。

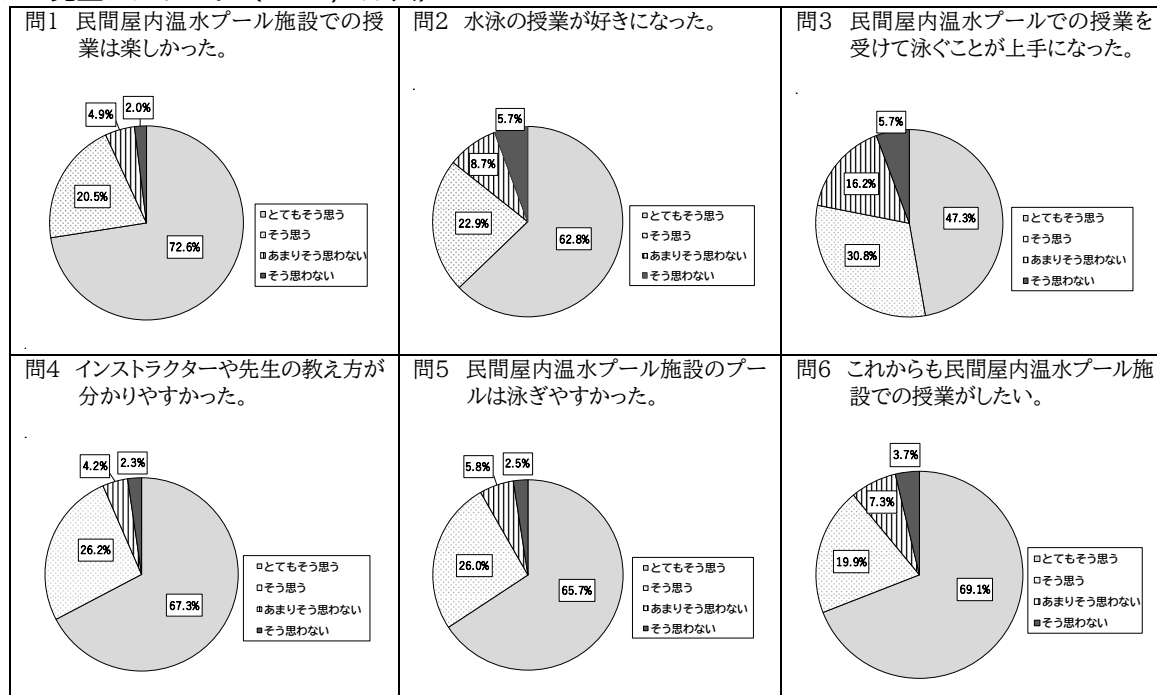
教員アンケートでは、「丁寧な指導でとても勉強になった。」「水が怖い子に上手に指導されていた。」という意見があり、9割を超える教員から「授業の指導支援業務委託により教員の負担軽減につながった。」と回答している。

児童、保護者、教員ともに民間屋内温水プールを活用した水泳授業に好意的な意見が多い結果となった。

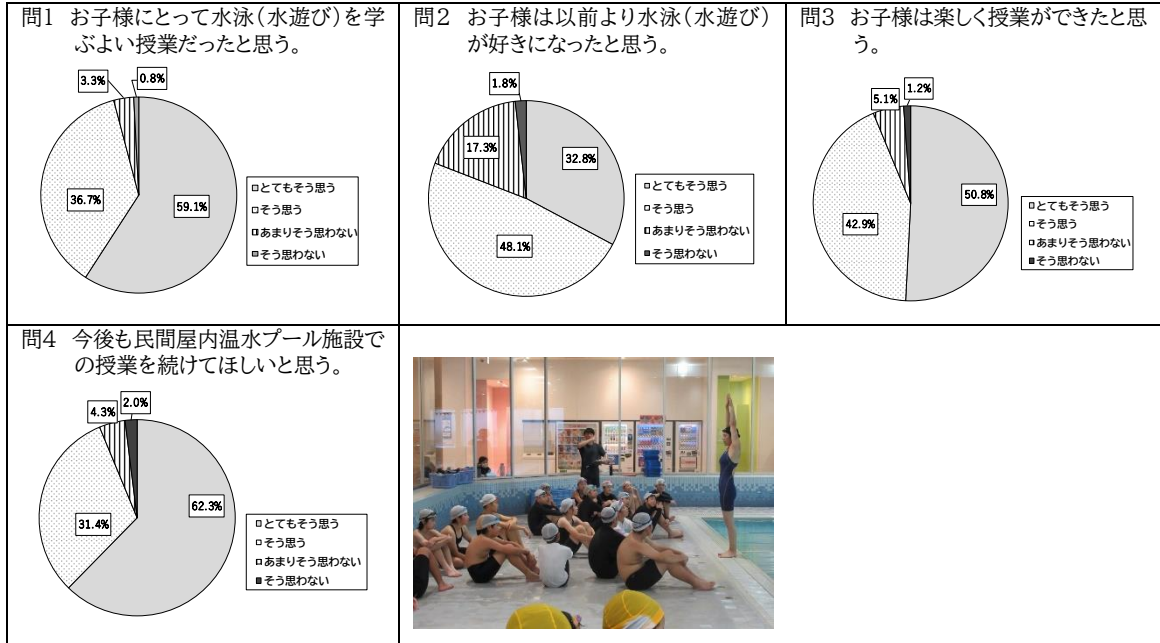
■回答者数と回答率

	児童	保護者	教員
回答者数	1,260 人	608 人	44 人
回答率	87.9%	42.4%	100.0%

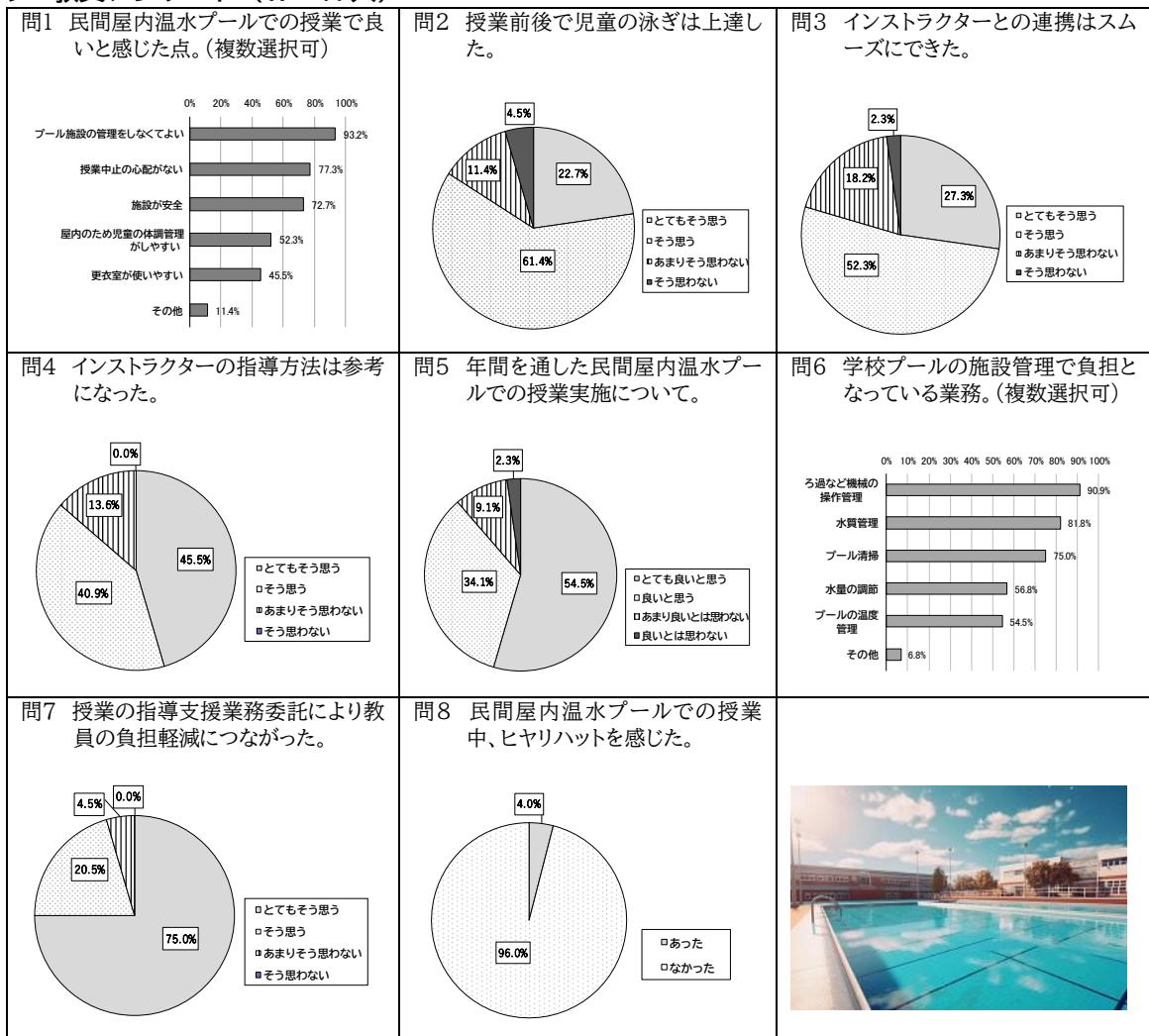
ア 児童アンケート (n=1,260 人)



イ 保護者アンケート（n=608人）



ウ 教員アンケート（n=44人）



3) 民間屋内温水プールの活用により期待される効果

ア 教育的効果

① 安全面・衛生面

- ・屋内プール環境により、炎天下での熱中症や日焼けの防止が図られる。
- ・教員、インストラクター、監視員による複数の目の監視により、安全な授業環境の確保が可能となる。
- ・施設が比較的新しいため老朽化など施設の不備によるケガ等の発生が抑制される。

《児童、保護者及び教員からの意見》

- ・プールサイド、プールきれいだった泳ぎやすい。(児童)
- ・安全で清潔な環境で授業を受けられてとてもよかった。(保護者)
- ・屋内なので日焼けや熱中症の心配ないのが助かります。(保護者)
- ・学校プールでの授業は、プール管理、安全確保、天候の心配が大変です。(教員)

② 児童の泳力向上と教員の指導力向上

- ・教員とインストラクターの連携により、個々の児童の泳力に合わせた専門的な指導を行うことで児童の泳力の維持・向上が期待できる。
- ・教員がインストラクターの指導方法を見聞きすることで、自らの指導の向上に役立てることができる。

《児童、保護者及び教員からの意見》

- ・児童アンケートでは、約8割の児童から「泳ぐことが上手になった。」と回答している。
- ・教員アンケートでも、8割を超える教員から「児童の泳ぎは上達した。」と回答している。
- ・学校での水泳授業では専門的な指導がなく、ほとんど泳げないので心配したが、インストラクター指導で息つきやたくさん泳ぐことを学ぶことができて本人の自身につながった。(保護者)
- ・適切な指導によって泳力が向上しました。(保護者)
- ・丁寧な指導で自分自身とても勉強になった。(教員)
- ・子どもたちの実態に応じて指導方法を変えてくれるためとても分かりやすかった。(教員)

イ 財政的效果

- ・小学校におけるプール更新に係る費用と民間屋内温水プールを活用した授業の費用を比較すると、1校あたり40年間で約1億 5,600 万円の経費削減が期待できます。

《1校あたりのプール更新と民間活用した場合のコスト比較》

	① プール更新	② 民間活用	差引(②-①)
年間費用	10,507,000 円	6,592,208 円	▲3,914,792 円
40 年間の総費用	420,280,000 円	263,688,320 円	▲156,591,680 円

ウ その他の効果

- ・プール清掃や残留塩素濃度などの衛生管理や、担任以外の教員が監視員として事故防止等安全管理にかかる負担が軽減され、教職員の働き方改革につながる。

《教員及び保護者からの意見》

- ・教員アンケートでは、9割を超える教員から「授業の指導支援業務委託により教員の負担軽減につながった。」と回答している。
- ・学校の先生の負担も減り良いと思う。(保護者)

4) 課題

ア 指導方法の共有化

- ・教員とインストラクターの役割分担、学習ルール等共通理解が必要となる。また、そのための事前調整に要する時間の確保も必要とされる。

イ 授業時数の調整

- ・児童の泳力の状況、到達目標、他校との授業時数のバランスなどを総合的に判断し、水泳授業の全体時数を検討する必要がある。

ウ 移動手段の確保と所要時間への柔軟な対応

- ・児童送迎バスの有効活用を図るため、午後の時間帯における水泳授業の実施の可能性について検討する必要がある。

エ 一般利用者との共存

- ・今後、専用利用できない日程や一部コースを一般利用した場合の共存などが想定される。一般利用に支障をきたさないよう十分な協議、調整が必要となる。

6 水泳授業及びプール施設の在り方に係る基本的な考え方（本編P22～24）

1）基本的な考え方

- ・水泳運動は、身体の調和的な運動であり、児童及び生徒の運動能力の向上、心身の健やかな成長や健康維持につながる。
- ・水難事故から命を守るための技能を身に付けさせることも重要であり、水泳授業を今後も適切に実施していく必要がある。

2）水泳授業（指導）の在り方

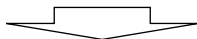
小学校	中学校
・基本的な水泳技能を身に付けることができるよう、実技指導を行っていく。 ・今後、すべての学校で民間プール及び市プール（以下「民間プール等」という。）を活用した水泳授業の指導支援業務委託を進めていく。 ・民間プール等の活用が困難な学校は、インストラクターの派遣による授業の実施を目指す。	・基本的に教員が指導をする。（現行どおり）

3）学校プール施設の在り方

小学校	中学校
・水泳授業の指導支援業務を委託した小学校は、原則、プールの大規模な修繕、改修、設備更新は行わない。	・特段の事情がない限り、原則これまでどおり1校1プールを維持していくこととし、長寿命化改修工事を実施することを基本とする。

4）学校プールの管理の在り方

文部科学省通知	学校
・学校プールの管理業務に関する教師等の負担を軽減するため、指定管理者制度の活用や民間事業者への業務委託等の取組を検討するよう各都道府県教育委員会に通知（令和6年7月）。	・令和6年9月の学校向けアンケート調査において、小・中学校とも8割以上から「水泳授業の準備（日常清掃、水張り、水質・水温管理等）に労力が掛かる。」と回答している。



プール管理の在り方	・教師等の負担を軽減するため、中学校及び民間プール等を活用することが困難な小学校は、学校プールの水質検査等管理業務について民間委託することを検討する。
-----------	---

5）水泳授業を実施するための方策

ア 民間プール等の活用

市内には、公共のプール施設が1か所、民間のスイミングスクール施設が3か所あり、専門的なインストラクターによる水泳指導が行われている。

民間プール等活用のメリット	課題等
・時期や天候に左右されず、計画的な授業実施が可能 ・安定した水温・水質等の衛生管理が確保できる ・インストラクターによる質の高い指導支援を受けることにより泳力の向上が期待できる ・学校プールの維持管理経費等が削減 ・安全管理や衛生管理における教員等の負担が軽減	・受入可能人数や、児童の送迎に時間を要する ・民間プール等との連携が困難になった場合などのリスクがある ・これら課題について検討が必要

イ 学校間の共同利用

共同利用によるメリット	課題等
・中学校体育科の教員、インストラクターの配置により質の高い水泳授業が期待できる	・広域的な視点で複数校が共同利用できるように、屋内プールにすることも検討が必要 ・学校間での授業の調整、移動手段や移動時間、移動時の安全確保 ・学校プール設置学校のみ維持管理負担が多くならないよう配慮が必要

6) その他

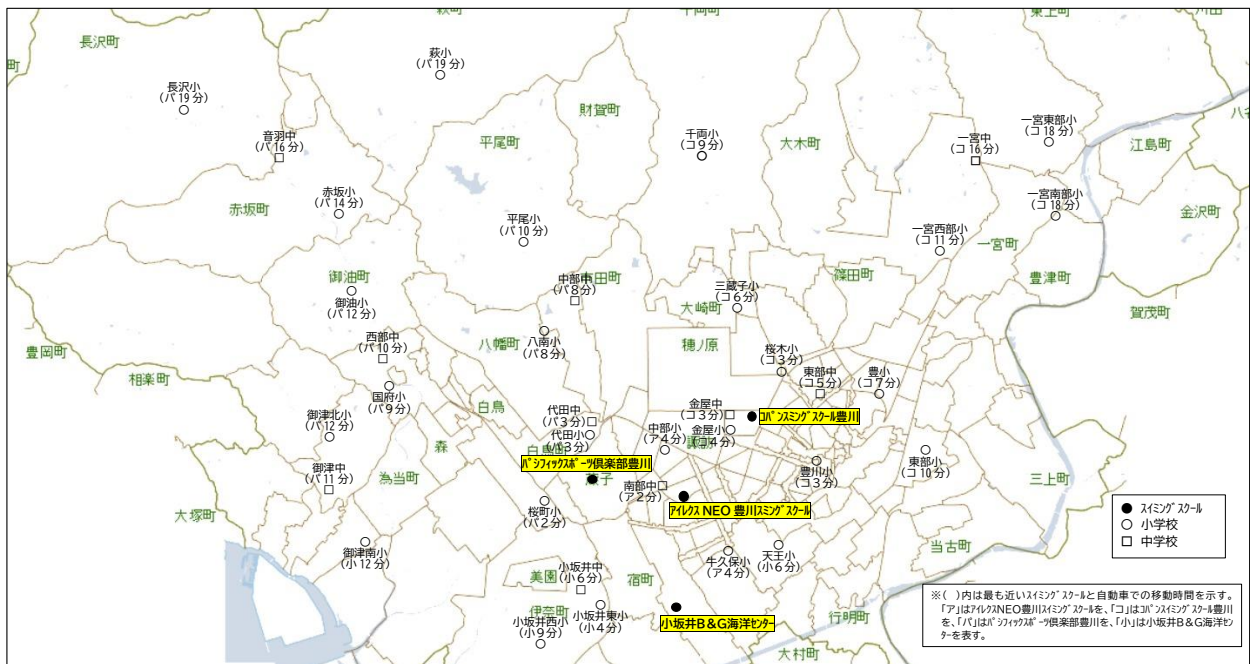
ア プールの除却及び跡地利用

- ・他の校舎の工事に合わせて除却することを検討
- ・跡地利用は、駐車場、運動施設、広場などとしての利用、学校施設更新時、校舎、体育館等へのレイアウト変更や仮設校舎建築用地として活用のほか、他の公共施設との関連性や学校施設周辺の環境整備なども含め検討

イ 消防水利等としての役割

- ・学校プールは消防水利施設として登録されているため、廃止する際は、関係部局と協議の上、代替の消防水利の設置を検討

(参考資料) 小・中学校及び民間スイミングスクールの位置図 (R6.4 現在)



**豊川市立小中学校の水泳授業及び
プール施設の在り方に関する基本方針(概要版)**

令和7年6月

豊川市教育委員会 発行

教育委員会庶務課

電話番号 0533-88-8032 FAX 0533-88-8038

E-mail kyoikushomu@city.toyokawa.lg.jp

教育委員会学校教育課

電話番号 0533-88-8033 FAX 0533-88-8037

E-mail gakokyoiku@city.toyokawa.lg.jp